

- チーム医療について
- 新入職員を迎えました
- 頭蓋骨骨折について
- 退任の挨拶
- パイプライン血管撮影装置・AlluraClarity(アルーラクラリティ)導入
- 新任医師紹介
- 臨床工学技士について
- 学術活動1月～3月

☎ 当院ではWiFi 無料インターネット接続サービスがご利用いただけます。ご希望の方は受付までお問い合わせください。

チーム医療について

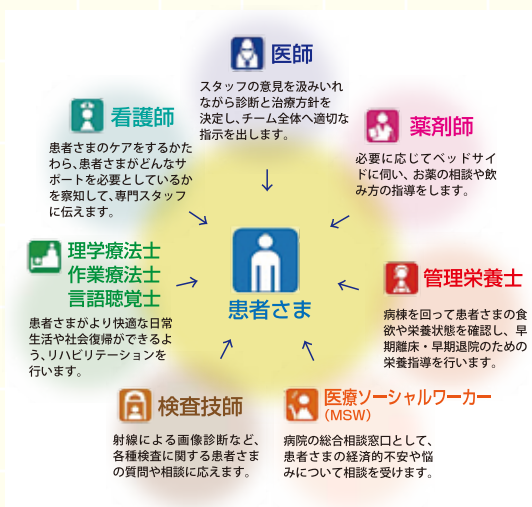
副院長・脳神経外科部長 須山嘉雄

当院ではチーム医療を行っています。チーム医療とは、患者さんが中心となり複数の医療専門職が連携して、治療やケアに当たることです。

医療専門職は職種別(医師、看護師、薬剤師など)に機能していますが、これらが対等に連携することで、患者さん中心の医療の実現を目指すものです。それ以外でも、各職種が横並びで連携できるようにさまざまな医療チームを結成(感染対策や栄養サポート、褥瘡対策など)し、定期的に会議をしています。

たとえば、医師は、毎朝、脳神経外科と脳神経内科合同でカンファレンスを行っており、その後に回診をしています。週に一度の多職種合同カンファレンスでは、検査漏れがないか、治療が適切に行われているか、リハビリの進行具合はどうか、退院後はどうされるのか、などを確認しています。また、薬剤師は、入院時や退院時に患者さんへの服薬指導を行い、管理栄養士は病棟を回診しながら、食欲不振や栄養状態を確認しています。

ただ、脳卒中を主に診療する当院では、忙しい日々の中で、時として「患者さん中心の医療」を忘れてしまいがちです。スタッフ全員が目的意識を高く持ち、病院理念である「患者さん第一」という目的に向かっていけるよう、頑張っていきたいと思っています。



頭蓋骨骨折について

脳神経外科医長 蛸子裕輔

頭をぶつけて骨折してしまうことがあります。同じ骨折でも、骨折の程度や合併する損傷（頭蓋内血腫、脳挫傷、脳神経損傷など）により治療法は異なります。

骨折は大きく開放性骨折と閉鎖性骨折に分けられます。これは、一言でいうと「頭蓋骨の内側と外側が交通しているかどうか」ということです。わかりやすいのは、骨折部位の直上の皮膚に深い傷があるような場合で、細菌などが頭蓋骨の内側に入り髄膜炎などの感染症を起こすリスクが高いため、傷を十分洗浄・消毒して外と交通している部位を外科的に閉鎖する必要があります。逆に、頭皮に傷がなくても頭蓋骨の内外が交通する場合があります。頭蓋底骨折と呼ばれるもので、鼻の奥や耳の奥の骨折が多く、髄液漏（髄液は頭蓋骨の内側にたまっている液体です）や髄膜炎のリスクがあり、自然に治ることもあれば、外科的な閉鎖が必要になることもあります。

頭蓋内の血腫や脳挫傷がある場合は、そちらの治療が優先

されることが多いです。脳神経損傷は視神経管骨折による視力障害、錐体骨骨折による聴力障害や顔面神経麻痺、前頭蓋底骨折による嗅覚障害などがあり、だいたいは薬物療法となりますが、視神経管開放術といった外科的治療を考慮する場合があります。

閉鎖性骨折の場合は自然に治るのを待つことが多いですが、かなり骨折部が陥没していたり、美容的

に問題があったり、周囲の血管や脳組織を圧迫していたりした場合は手術で整復することもあります。特に顔面の骨（眼窩、鼻骨、頬骨、上顎骨、下顎骨など）の骨折の場合は、形成外科的な整復手術の頻度が多くなります。

余談になりますが、小さいお子様の頭蓋骨はまだ骨がくっついていないため隙間がたくさんありますが、これは骨折ではありませんのでご心配いりません。

頭蓋骨骨折 CTの3D再構成画像



神戸交通事故・後遺障害無料相談のHPより



ニュートリション運動推進会議
子どもの健康づくり委員会のHPより

新入職員を迎えました

平成29年4月3日に入社式を行い、医師1名、看護師10名、准看護師7名、診療放射線技師1名、理学療法士1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、社会福祉士(包括)1名、介護福祉士(老健ひばり)2名の計25名が入職いたしました。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。



退任の挨拶

この度、臨床研究でアメリカへ留学するため、3月末をもちまして退職することとなりました。梶川病院では、平成25年4月から4年間勤務させていただきました。ご迷惑をおかけしたことも多々あったかと思いますが、脳神経外科医として大変貴重な経験を積むことができました。本当にありがとうございます。これからも皆さまの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



脳神経外科医長 石井洋介

この度3月をもちまして退職させていただくことになりました。脳神経内科に入局し、最初の1年間を梶川病院で勤務させていただき、多くのことを勉強させていただきました。4月からは慢性期の病院に移りますが、当院で学んだことを生かしつつ精進して参ります。指導して下さった先生方、コメディカルの方々、診療させていただきました患者様にも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



脳神経内科 渡邊友彬

新任医師紹介

4月から脳神経内科医として勤務させていただきます。広島生まれ、広島育ちで広島大学出身です。梶川病院にはこれまで、研修医の3ヶ月間と4年前に週1回の当直で1年間ほど来させていただいておりました。新しい病院に慣れるまで皆様に色々ご迷惑をかけることが多いと思いますが、広島の脳卒中や神経内科疾患の診療に貢献できるよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。



まつしま はやと
脳神経内科医長 松島勇人

学術活動 1月～3月

2/1 第40回症例から学ぶ神経内科in広島
「帰ってきたTGA」 脳神経内科 前谷勇太

2/13 第15回広島リハビリテーション研究会(摂食・嚥下部門)
「舌圧測定は急性期脳卒中患者の肺炎発症を予測する」
脳神経内科医長 中森正博

2/25-2/26 第3回認定指定講習会
「アルツハイマー型認知症早期発見のための神経心理検査の実践」
臨床検査部 西野真佐美

3/1 7th Knack&Pitfall Club in Neurology
「抗凝固療法の最近の問題」 脳神経内科部長 今村栄次(座長)

3/16-3/19 第42回日本脳卒中学会学術集会
「脳出血発症前の抗血栓薬内服と転帰」 脳神経内科部長 今村栄次
「破裂直後に母血管閉塞を生じ、当日および翌日に再開通していた解離性椎骨動脈瘤の2例」
脳神経外科医長 蛸子裕輔

「舌圧測定は脳卒中患者の入院中肺炎発症を予測する」 脳神経内科医長 中森正博
「脳梗塞超急性期治療患者におけるADC値と可逆病変の検討」 脳神経内科 前谷勇太
「FIM細項目において回復期脳卒中片麻痺患者の歩行獲得に影響を及ぼす要因の検討」 リハビリ部 畑山智哉
「脳卒中患者における頸動脈エコー、ABI/PWVの相関と病型診断に関する検討」 臨床検査部 小川川菜美

3/26 第42回広島県病院学会
「手術準備の効率化に向けての取り組み」 看護部 高木克己
「脳血管疾患発症によって生じる心理過程について～回復期リハビリテーション病棟での経過を踏まえて～」
医療福祉相談部 深井梨加

医療法人 翠清会 翠清会梶川病院

TEL : 082-249-6411 FAX : 082-244-7190
〒730-0053 広島市中区東千田町1丁目1-23
<http://www.suiseikai.jp>

《病院理念》

Patient First 「患者さん第一」
ファースト・オピニオン(First Opinion)を提示でき、
セカンド・オピニオン(Second Opinion)を求められる病院に!

《基本方針》

- 1 脳の専門病院として24時間、常に質の高い医療を提供します。
- 2 患者さんの権利を尊重します。
- 3 患者さんの安全と安心を確保し、医療事故の予防と対策に努めます。
- 4 急性期から慢性期、在宅までの地域の関連機関と連携を強化します。
- 5 翠清会の職員である誇りを持ち、プロとしての実力を高め、チーム医療に貢献します。



放射線部通信

バイプレーン血管撮影装置・ AlluraClarity(アルーラクラリティ)導入

放射線部 技師長 大屋光司

今回は、新病院開院と共に新規導入されたバイプレーン脳血管撮影装置についてお話しします。装置は、フィリップス社の「AlluraClarity (アルーラクラリティ) FD20/15」というもので、これまでになかった最適な側面15インチサイズディテクタを搭載し、より自由度の高い撮影角度と十分な側面視野を確保した脳血管内治療に最適なデザインとなっています。また、頭蓋全体をカバーできるサイズにも関わらず高い濃度分解能を有し、2mm以下の微小血管や治療に用いられるマイクロカテーテル、コイル、ステントといったデバイスを明瞭に描出することができます。その他、高解像度の3Dイメージが得られるコーンビームCT技術「VasoCT」や、高画質を維持しながら従来比73%の被ばく低減に寄与する技術「Clarity IQ」も搭載し、新型の頭部固定具、MR/CT画像との重ね合わせによる3Dロードマッピング機能、脳血流を評価する「2D Perfusion」、これらを術中に多才なレイアウトでモニタリングする大型モニタ「FlexVisionXL」などの支援ツールを備えています。このように、従来の装置と比べ、側面アームが増えた事で、正面側面の同時撮影を行う事ができ、造影剤の使用量を低減できます。患者様には、より短時間で有用な検査、最先端の治療を低侵襲で提供することが可能となりました。また、当院の須山副院長が新たに日本脳神経血管内治療学会指導医を取得されましたので、最先端の装置と共により安全で質の高い医療を提供していきたいと思っております。



臨床工学技士について

臨床工学技士 河村知里

臨床工学技士とは、1987年に法制化されて翌年施行された医療に関わる職種としては比較的新しい国家資格となります。ME(Medical Engineer)やCE(Clinical Engineer)と呼ばれ、医師の指示の下、生命維持管理装置と総称される血液浄化装置・人工呼吸器・人工心肺装置などの操作を行ったり、輸液ポンプ等の医療機器がいつでも安心して使用できるように保守・点検を行う専門職です。

業務範囲としては、呼吸療法・人工心肺・血液浄化の他に手術室・集中治療・心血管カテーテル・高気圧酸素・ペースメーカー・医療機器管理と多岐に渡ります。当院には2名の臨床工学技士が在籍しており、医療機器管理業務と人工呼吸器業務に携わっています。

医療機器を通じて患者様に安全な医療が提供できるように、安全性の確保と有効性の維持に尽力いたします。

よろしくお願いたします。

